

皆様、こんにちは。校長の薫科です。

本日は、お忙しい中を御来校いただき、ありがとうございます。

新年度が始まって、もうすぐ1カ月になりますが、子供たちは、明るく元気に学校生活を送っています。昨年もお話ししましたが、素直でかわいい子供たちを見ていると、この子たちの人生が、幸せなものであってほしいと願わずにはいられません。94人の子供たちは、私の宝物です。お子様の成長を職員一同、全力でサポートしていきたいと思ひます。

さて、私からは、初めに、本年度の勝間田小学校の教育目標について、お話ししたいと思います。

勝小の子供たちの全体的な特徴として、言われたことや与えられたことはしっかりと行うことができますが、「自分で考えて行動する力」は十分とは言えません。AIがますます発達する今後の社会では、人に言われたことをやる力だけでなく、自分で考え、判断し、行動する力が必要であると言われてひます。そのような力を「主体性」と言ひますが、ある調査によると、この「主体性」が、ここ数年、企業が新卒者に求める力の最上位になっています。こうしたことから、子供たちがいずれ社会に出た時に必要となる力を、小学生のうちから少しずつ育てていくことが大切であると考え、本年度の学校教育目標を「自分で考え 行動する子」にしました。

この目標に向けた土台として、本年度も「きらり見つけ」を大切にひていきます。子供たちが、友達や先生、保護者、地域の方々など多くの人から認めてもらったり、褒めてもらったりすることで、ありのままの自分を肯定的に受け止めたり、自分に自信が持てたりするようになり、それをエネルギーにして、学習や様々な活動に主体的に取り組めるようにしたいと思ひます。

学習面では、子供が受け身になる授業ではなく、「目を輝かせて前のめりになる授業」や「勉強って楽しいと思える授業」を目指します。運動会では、行う種目を子供たちが考えるなど、企画や運営に子供が主体的に関わる場面を増やしたいと思ひます。学校のきまりについても、教師が全て決めてしまうのではなく、子供たちがルールを考えることも大切にしたいと思ひます。

子供が失敗しないように大人が過保護になりすぎてしまうと、子供は自分で考えようとせず、大人の言うことをただ聞いているだけでよいと刷り込まれてしまいます。決して簡単なことではありませんが、教えるべきことはきちんと教えた上で、失敗を恐れずチャレンジさせながら、子供たちが自分の力でできることを増やしていけたらいいな、と思ひます。

次に、勝小の職員が本年度、大切にすることをお話しします。これは、4月初めの職員会議で、私が職員にお願いしたことでもありますが、保護者や地域の皆様が、学校に対して協力的で、温かく見守ってくださることは、とてもありがたいことですが、職員がそれに甘えてはいけな
いとと思っています。常により良い教育を目指して努力するとともに、子供に対しても、保護者に対しても、地域の方々に対しても、いつも「優しく 温かく 丁寧」な対応を、全職員で心掛けたいと思います。また、子供であっても、一人の人間としてリスペクトし、一人一人に寄り添う指導を大切にしていきたいと思っています。

一方で、「職員の幸せが、子供たちの幸せや保護者の幸せ、地域の幸せにつながる」という考えを私の信念にしています。職員が元気でないと良い教育はできません。職員が疲弊してしまうと、結果として子供のためになりません。だから、職員を大切に、職員が気持ちよく働くことができる職場づくりを私は大切にしていきます。おかげ様で、昨年度行ったアンケートでは、「勝小で働くことに幸せを感じている」と回答した職員の割合が100%でした。保護者や地域の皆様の力は、子供たちの力になるだけでなく、職員の力にもなります。本年度も、温かい御支援、御協力をお願いできれば、大変嬉しく思います。

最後に、もう一つ、保護者の皆様をお願いします。私が過去の中学校勤務で感じてきたことですが、中学入学後に、学力の問題や不登校の問題、生徒指導上の問題などが顕在化することがあります。そのため、中学入学後を見据えて、今のうちから子供たちに未来への貯金をつくってあげることが大切であると感じています。例えば、「家庭学習の習慣をしっかりと身に付けること」「基礎的な学力の定着をおろそかにしないこと」「早寝・早起き、朝ごはん、挨拶などの規則正しい生活習慣を身に付けること」「スマホなどの情報機器は、家庭内でルールをしっかりと決めて使用すること」などを、引き続き御家庭でも、大切にしていただけるとありがたいと思います。

以上で、私の話を終わります。それでは1年間、どうぞよろしくお願いいたします。